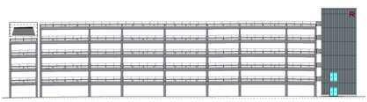
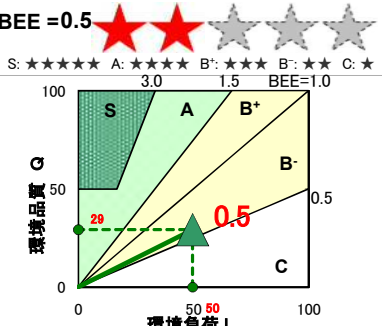

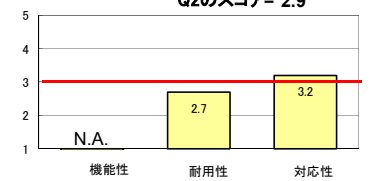
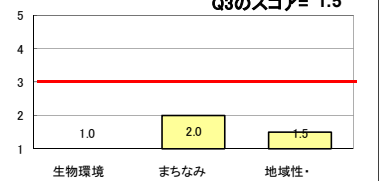
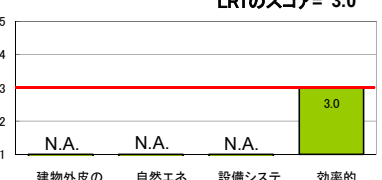
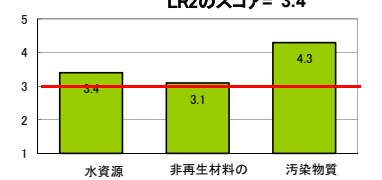
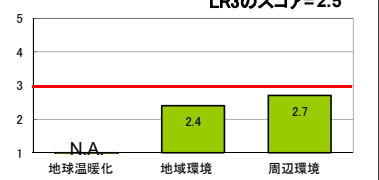


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	USS-R名古屋新会場内 立体駐車場 C棟	階数	地上5階	
建設地	愛知県東海市新宝町507-52、507-47	構造	S造	
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年9月1日	
敷地面積	7,340 m ²	作成者	吉川 武	
延床面積	19,863 m ²	確認日	2019年9月1日	
		確認者	吉川 武	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.5</p>  <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み #DIV/0!</p> <p>③上記+②以外の #DIV/0!</p> <p>④上記+ 46</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(パーチャート)		
<p>Q のスコア = 2.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 0.0</p> 	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.9</p> 	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.5</p> 
<p>LR のスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.0</p> 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.4</p> 	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.5</p> 

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>N.A</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮


②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

あいちの環境活動を応援しています



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				3.2	0.48			-	3.2
3.1 空間のゆとり		②	建物は耐力壁を設けない構造とし自由な空間を可能とした。	3.8	0.31			-	
1 階高のゆとり				3.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.19			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.19			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.13			-			
4 通信配線の更新性		-	-			-			
5 設備機器の更新性		3.0	0.25			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.25			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	1.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				1.5	0.30			-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				1.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-			-	-
2 自然エネルギー利用				-	-			-	-
3 設備システムの高効率化				-	-			-	-
4 効率的運用				3.0	1.00			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	-
集合住宅の評価				-	-			-	-
4.1 モニタリング				-	-			-	-
4.2 運用管理体制				-	-			-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型機器使用	4.0	0.40			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生骨材の路盤使用	3.0	0.21			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.25			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	取り外し可能なボルト接合を主に使用する計画とした。	4.0	0.25			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68			-	-
1 消火剤				-	-			-	-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材の使用は無し。	5.0	1.00			-	-
3 冷媒				-	-			-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.5
1 地球温暖化への配慮		①		-	-			-	-
2 地域環境への配慮				2.4	0.50			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	-
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33			-	-
2 汚水処理負荷抑制				-	-			-	-
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の適切なスペースを確保し、渋滞、路上駐車などを抑制し	4.0	0.33			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33			-	-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.50			-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-
2 振動		独自		-	-			-	-
3 悪臭				-	-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				1.6	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

USS-R名古屋新会場内 立体駐車場 C棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	1.0
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	通常の基礎を行わないで主要構造部の柱と杭を一体として設計することにより掘削残土を最小化でき環境負荷を低減するように配慮した。
Q1 室内環境	該当なし
Q2 サービス性能	構造部材を痛めることなく配管の更新ができるようにし、長く使用できる建築物となるように配慮した
Q3 室外環境(敷地内)	排熱を伴う設備を設けないことにより、敷地内暑熱環境に影響が発生しないよう配慮した。
LR1 エネルギー	建築物の規模に対する一次エネルギー消費量が過大にならないように、車をストックする部分には過度な照明設備の配置をしないよう配慮した。
LR2 資源・マテリアル	コンクリート基礎を設けない構造とする事でコンクリートに使用する材料などの資源を最小化する配慮を行った。鉄骨の接合部を出来る限りボルト接合とすることにより容易に分別できるように配慮した。
LR3 敷地外環境	十分な量の駐車台数を確保することにより、敷地周辺の交通環境に好影響を与えるよう配慮した。
その他	該当なし